

日中友好の継続を願って

公益財団法人結核予防会

事業部普及広報課 山本 結

2018年10月9日～13日の日程で、第27回結核及び胸部疾病日中友好交流会議を無事に開催できましたこと、開催に際してご協力・ご参加いただきました皆様にご心より御礼申し上げます。毎年日中交互に開催してきた会議を2012年に宮城県結核予防会から引き継ぎ、東京での開催は今年で4回目を迎えました。

9日の午後、瀋陽市から瀋陽市防痨協会副理事長・瀋陽市胸科医院副院長の姜団長をはじめ李先生、田先生、譚先生、また長春市から長春市伝染病医院の張院長の5名が来日されました。一行は成田空港到着後、水道橋に移動し夕刻より歓迎夕食会を開催し懇親を深めました。夕食会には昨年同交流団として中国に招聘された岡田国際部部長、小林募金推進部部長にご同席いただき、懐かしい話に花を咲かせました。

翌10日の第27回交流会議は、清瀬の結核研究所にて開催されました。会議の内容は次のとおりです。

- 10:20～ 講演1「菌陰性結核診断」
結核研究所 吉山企画主幹
- 11:10～ 講演2「結核性膿胸の外科治療」
瀋陽市胸科医院 田主任
- 12:50～ 複十字病院（呼吸器外来等）の視察
- 13:40～ 講演3「抗酸菌検査 新しい診断法の発達2」
結核研究所 御手洗抗酸菌部部長
- 14:20～ 講演4「長春市結核防治計画（2016—2020年）
における紹介」長春市伝染病医院 張院長

講演後、「多剤耐性結核治験の可能性について」をテーマに意見交換会が行われ、岡田国際部部長を座長に日中両国の現状を踏まえながらの活発な討論となりました。最後に森結核研究所名誉所長が総括され、盛会裏に終了しました。

夕刻からは水道橋に移動し、理事長招宴の歓迎会で和やかなひと時を楽しまれました。

11日は、朝から仙台市へと移動し旧伊達邸での昼食後、仙台市立病院を視察されました。4年前に移転したばかりの設備の整った院内を、時折質問を交えながら熱心にご覧になっていました。その後は青葉城址や魯迅記念碑を見学したのち、宮城県支部の皆様から熱烈歓迎を受け交流を深められました。

12日は仙台市を表敬訪問し、宮城県内や仙台市内の

結核感染や対策の現状の説明を受け、医学交流が行われました。全国でも上位を誇る宮城県の結核罹患率の低さや徹底した対策に感心されている様子でした。その後は定禅寺通りを散策し、あいにくの小雨のお天気でしたが仙台市街を満喫され、「仙台はとても美しい街という印象を持ちました」と訪問を振り返っておられました。

東京に戻られ、翌日の午後無事帰国されました。慌ただしい5日間でしたが、今回の来日を充実した経験と感じていただけたようで誠に幸いです。

最後に本交流会議にあたり、宮城県支部の皆様、通訳の舒さん、斉藤さん、そして携わっていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。昨年本会に入職し、前回の東京開催を知らないまま担当となり不安だけでしたが、皆様のおかげで無事に5日間の日程を執り行うことができました。今回反省したい点も多くございますので、次回以降に生かしていきたいと思っております。

また、2019年の第28回会議は、中国での開催予定となっておりますので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

研修生の受け入れ

これに先立ち、本会議の一環として国際研修「平成30年度UHC時代における結核制圧コース」に瀋陽市胸科医院より高亜男医師を招聘し、中国の国レベルの結核対策強化を目的として研修を行いました（本誌No.383 p24参照）。🐼



前列右より張義先生、李坤先生、姜彭嘉先生、後列右より譚珂先生、田懷宇先生（筆者撮影）